

2-2 交通状況

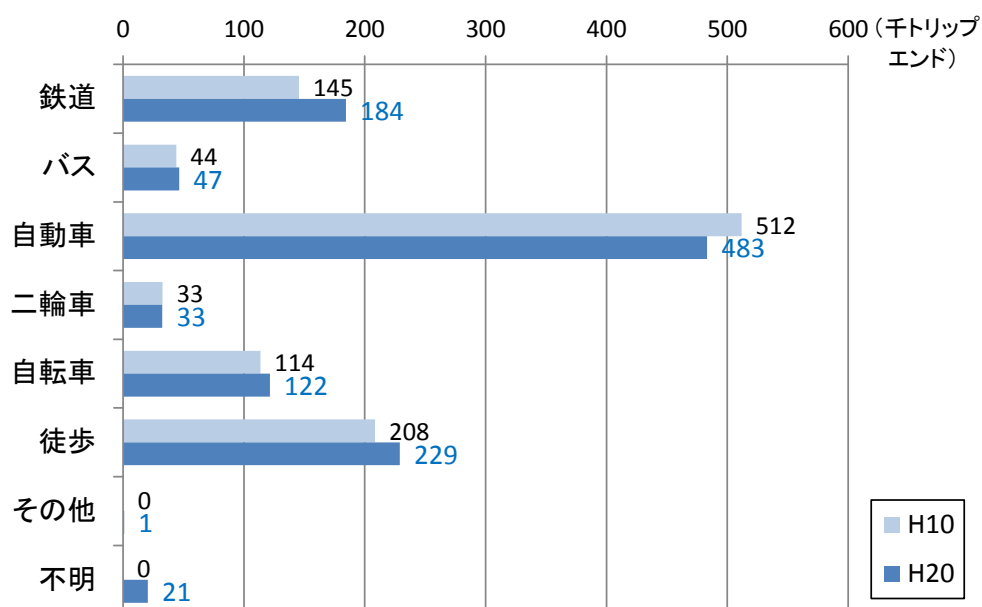
(1) 発生集中交通量

1) 交通手段別発生集中交通量の推移

東京都市圏パーソントリップ調査結果における厚木市の発生集中交通量は、平成10年が1,056千トリップエンド、平成20年が1,119千トリップエンドであり、厚木市内を出発地、目的地とする人の移動量は増加しています。

移動交通手段別にみると、自動車が半数近くを占めていますが、鉄道やバスの公共交通機関、自転車、徒歩による移動量が増加しています。

■厚木市の代表交通手段別発生集中交通量の変化



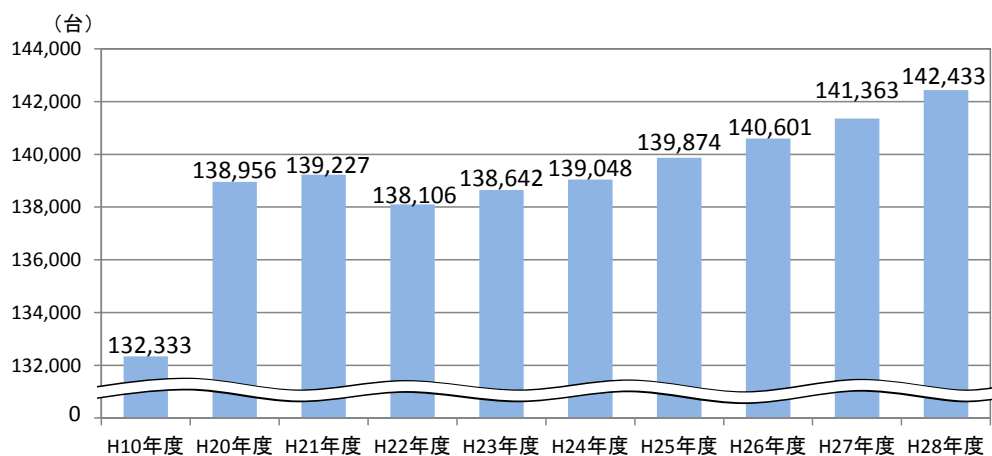
資料：東京都市圏パーソントリップ調査結果（平成10年、平成20年）

※発生集中交通量とは
ある地域内に出発地又は発着地を持つ人の移動の合計。
※トリップエンドとは
発生集中交通量の集計の単位。

2) 自動車保有台数の推移

厚木市の自動車保有台数は、東京都市圏パーソントリップ調査（平成20年）以降も概ね増加傾向にあり、自動車の発生集中交通量が増加していることがうかがえます。

■厚木市の自動車保有台数の推移



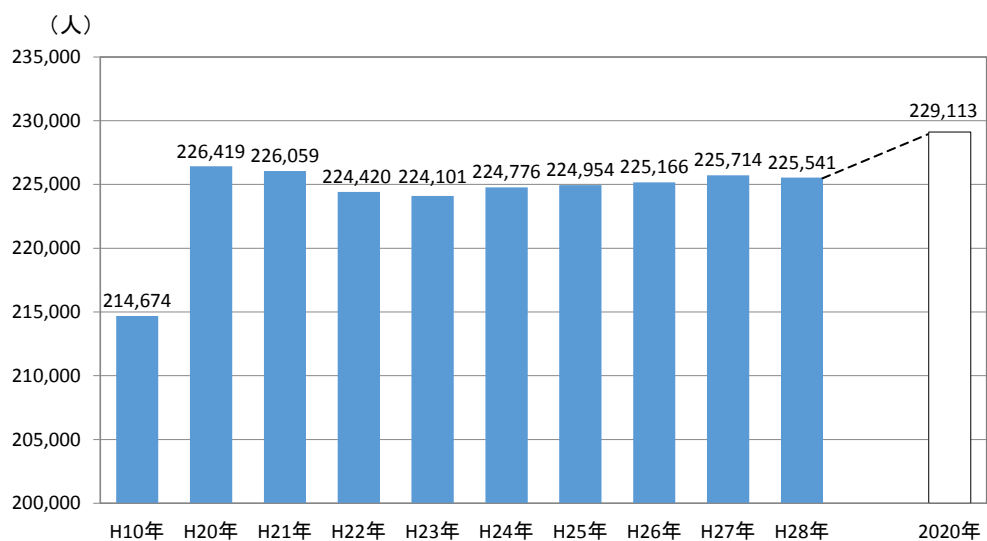
資料：統計あつぎ

3) 人口動向

厚木市の人口は、平成20年の約226,000人をピークに一旦減少しましたが、平成24年以降、少しずつではありますが増加してきています。

「厚木市人口ビジョン」では、2020年の人口を約229,000人（平成20年より約3,000人増加）と予測しており、人口規模からも発生集中交通量の増加が見込まれます。

■厚木市の人口推移



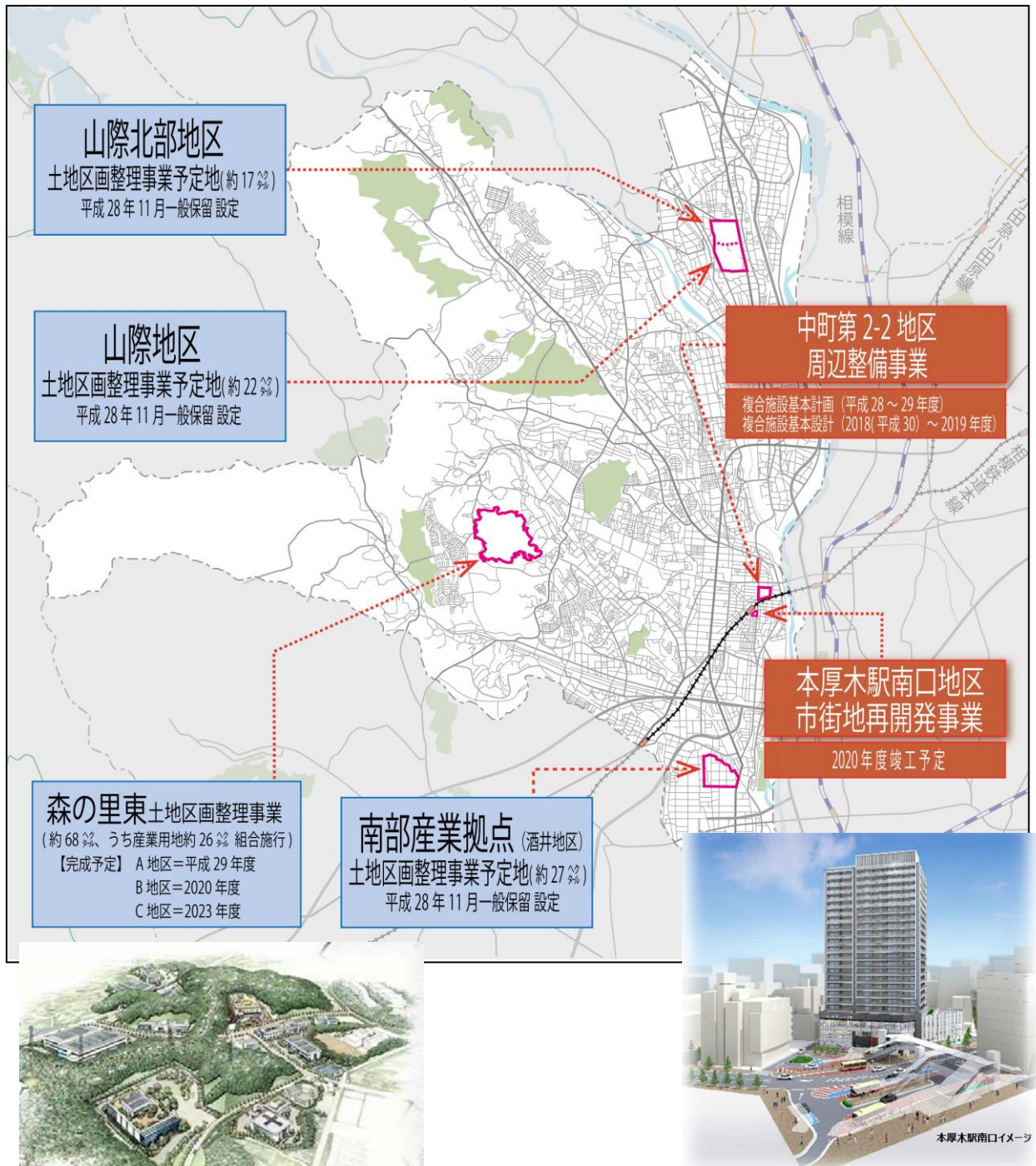
資料：H10～28年：統計あつぎ、2020年：厚木市人口ビジョン（将来展望）

4) 開発動向

厚木市では、中心市街地において「本厚木駅南口地区市街地再開発事業」や「中町第2-2地区周辺整備事業」などが実施又は計画されています。また、郊外部では、小鮎・南毛利地域の「森の里東（下古沢、上古沢、愛名、森の里青山地内）」、依知地域の「山際地区」、「山際北部地区」、相川地域の「南部産業拠点（酒井地区）」の4地区で土地区画整理事業が実施及び計画されています。

これらの地区には、今後、産業拠点として企業立地が進展するため、発生集中交通量が増加することが見込まれます。

■厚木市の主な市街地開発事業

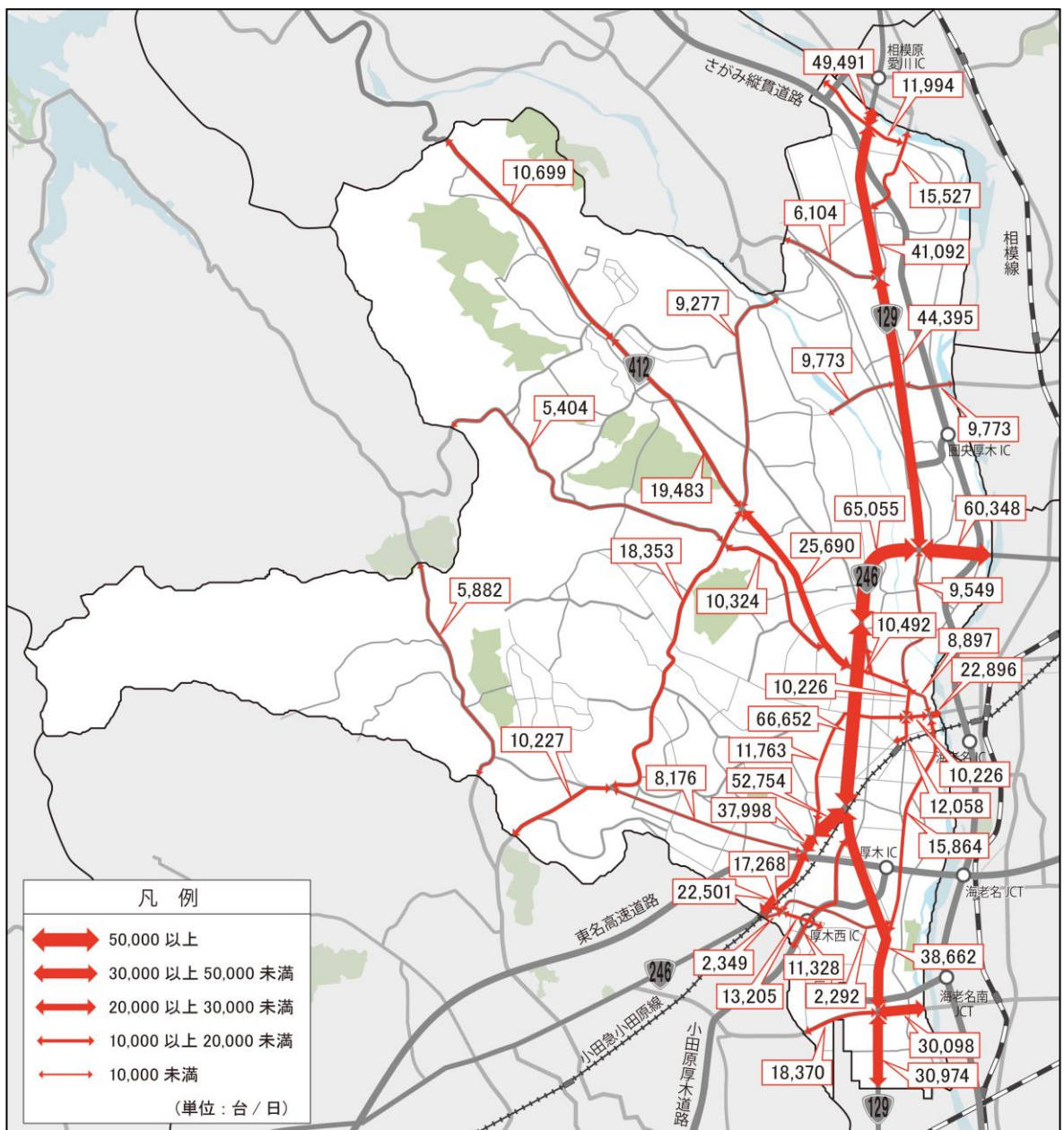


(2) 自動車交通量

平成27年の道路交通センサスによると、厚木市の主要道路の交通量は、国道246号・129号の重複区間が65,055～66,652台/日、重複区間前後の国道129号が30,974～44,395台/日と非常に多くなっています。

相模川の渡河断面の交通量も、国道246号新相模大橋で60,348台/日、県道40号相模大橋で22,896台/日、県道22号戸沢橋で30,098台/日と多くなっています。

■厚木市内の幹線道路の交通量

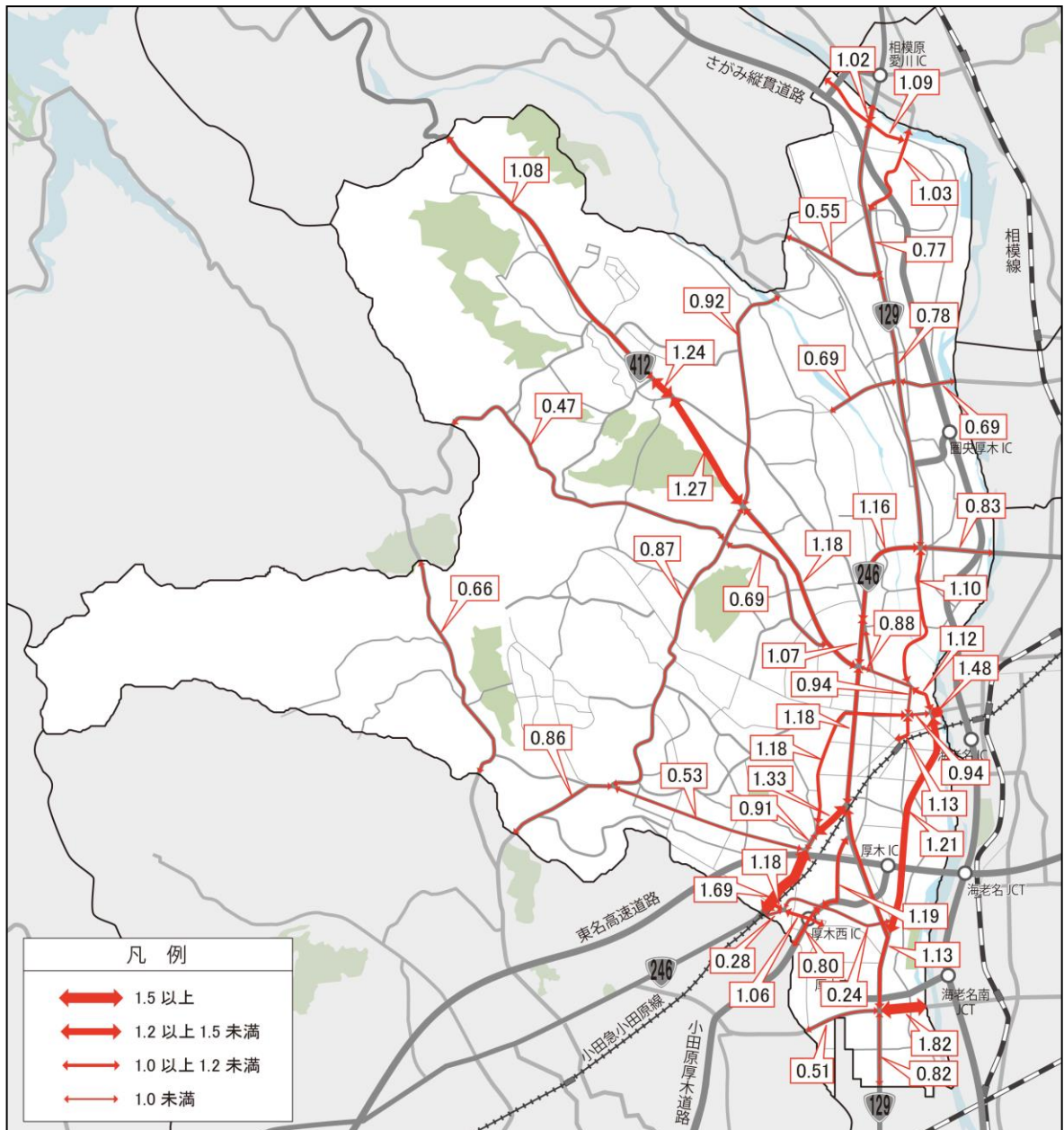


出典：H27 道路交通センサス

(3)混雑度

平成 27 年の道路交通センサスによると、厚木市の主要道路の混雑度は、相模川の渡河断面である県道 22 号戸沢橋が 1.82 と最も高く、次いで国道 246 号愛甲石田駅周辺の 1.69 となっています。

■厚木市内の幹線道路の混雑度



出典：H27 道路交通センサス

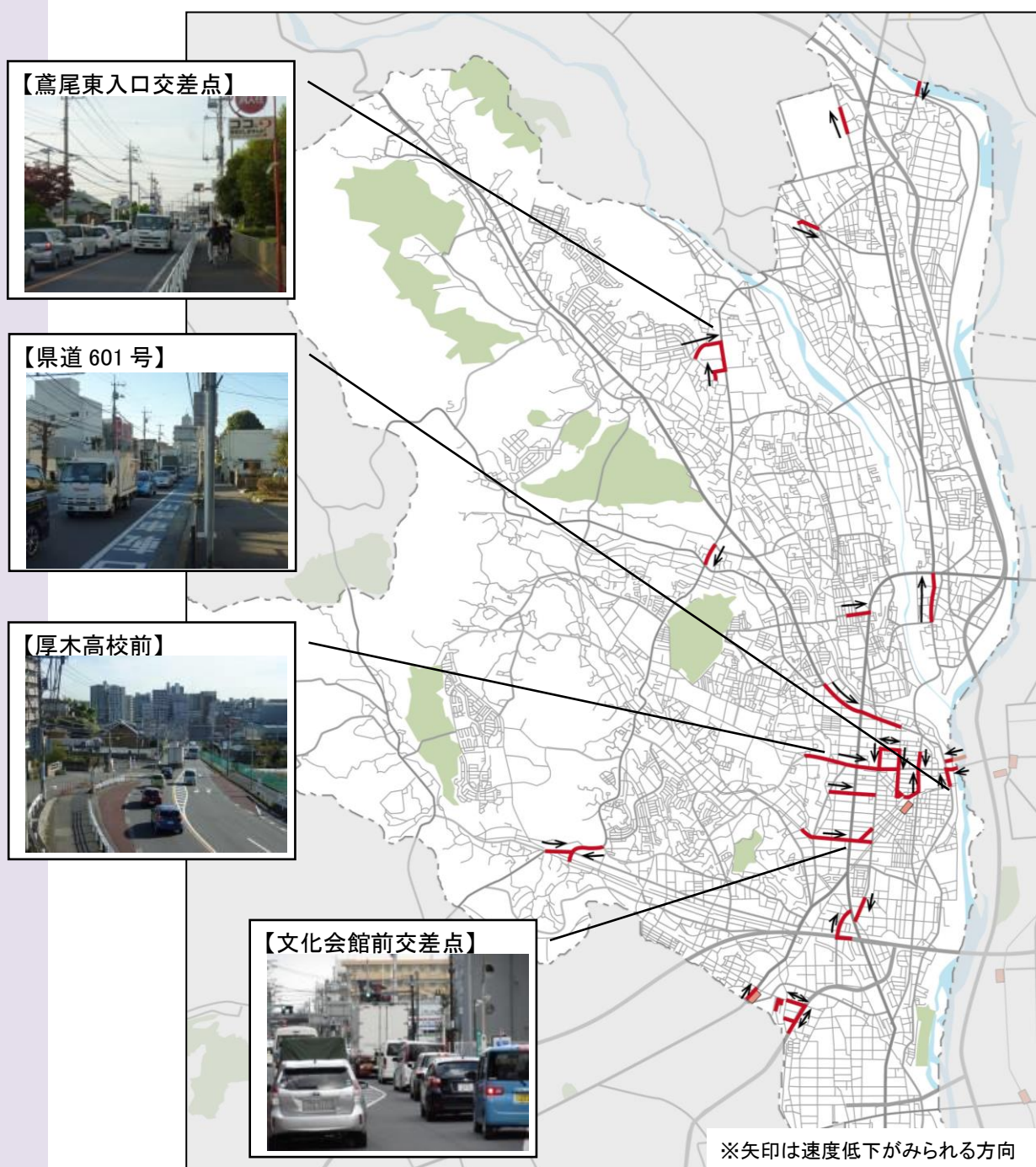
※混雑度とは

道路区間の交通容量に対する交通量の比であり、道路交通の処理状況を表す指標。混雑度が 1.0 を超える場合は、道路が混雑している状況である。

(4) 渋滞(速度低下)発生状況

平日、朝ピーク（7～9時）における走行性をみてみると、本厚木駅周辺、愛甲石田駅周辺のほか、鳶尾東入口交差点周辺や、小野橋北側交差点周辺、依知地域の内陸工業団地周辺などで旅行速度が10km/h未満の区間が点在しており、速度低下がみられます。

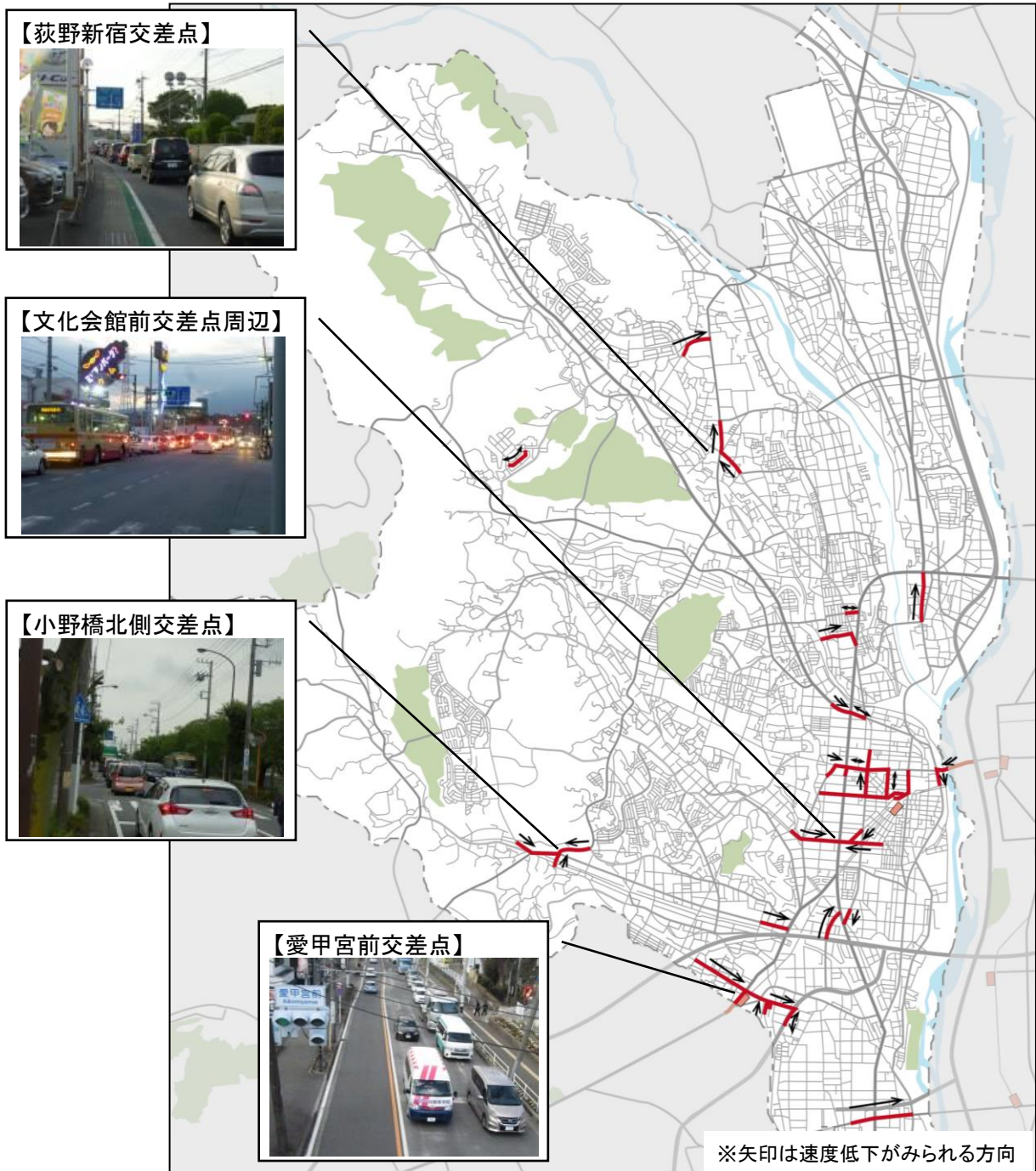
■朝ピークで旅行速度10km/h未満の区間(平成27年9～11月平均、7～9時)



データ提供元: 民間プローブデータ(Hondaインターナビフローティングカー統計データ)
一般財団法人日本デジタル道路地図協会の地図データベース(DRM)で定める主に交差点ごとに区切られた区間(リンク)を車両が通過するのに要した時間(旅行時間)を集計したデータ

平日、夕ピーク（17～19時）における走行性をみてみると、朝ピーク同様に、本厚木駅周辺、愛甲石田駅周辺、小野橋北側交差点周辺などで旅行速度が10km/h未満の区間が点在しています。朝ピークに比べると夕ピークは、愛甲石田駅周辺の速度低下が目立ちます。

■夕ピークで旅行速度 10km/h 未満の区間(平成 27 年 9～11 月平均、17～19 時)



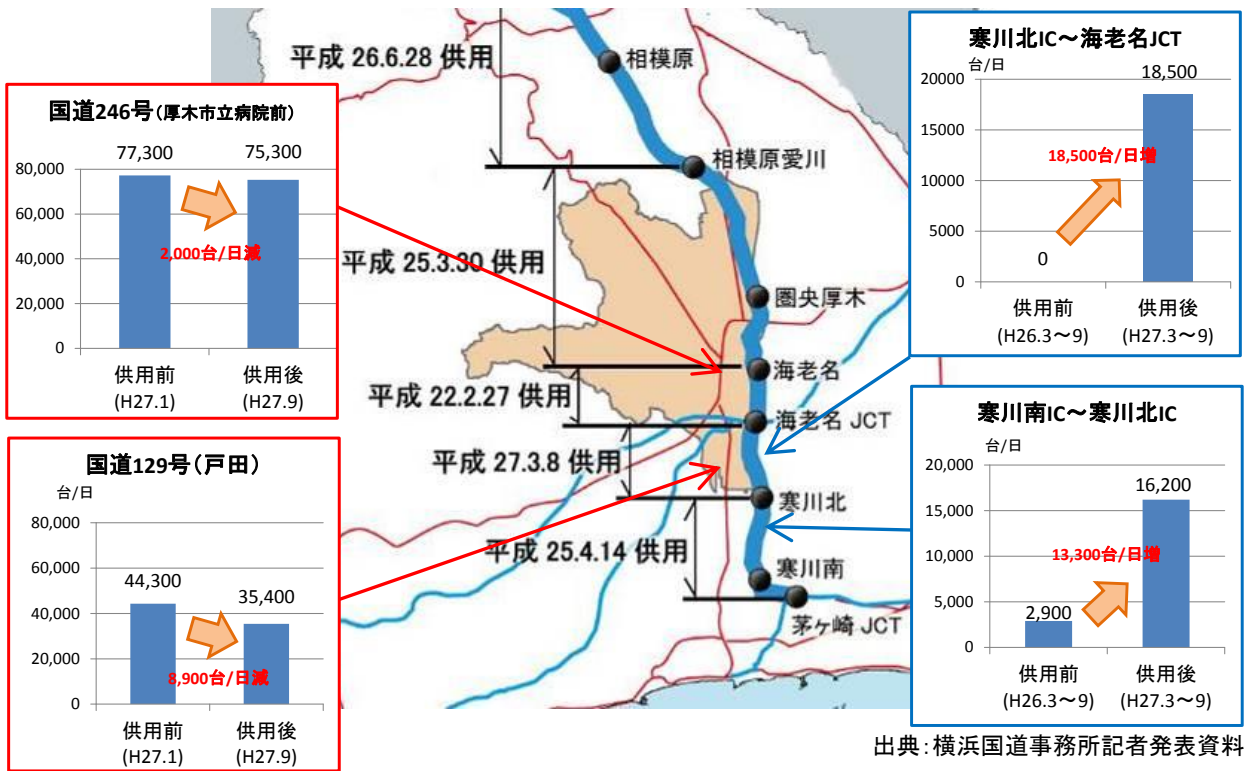
データ提供元: 民間プローブデータ(Hondaインターナビフローティングカー統計データ)

Topics

さがみ縦貫道路供用による交通状況の変化

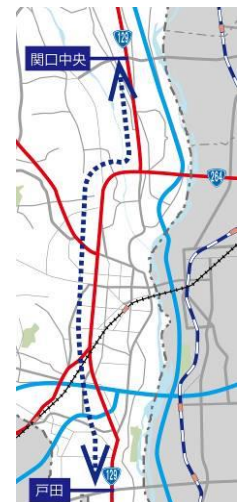
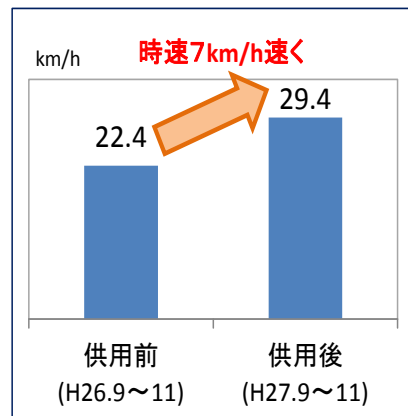
平成 27 年 3 月のさがみ縦貫道路の全線供用により、新たに供用された寒川北 IC～海老名 JCT 間の交通量は、開通後半年間の平均で 18,500 台/日となり、既に供用していた寒川南 IC～寒川北 IC 間の交通量も半年間で 2,900 台/日から 16,200 台/日へと 13,300 台/日増加しています。並行する国道 246 号の厚木市立病院前は 77,300 台/日から 75,300 台/日へと 2,000 台/日減少、国道 129 号戸田で 44,300 台/日から 35,400 台/日へと 8,900 台/日減少するなど、さがみ縦貫道路へ交通の転換が図られています。

■さがみ縦貫道路の供用による交通量の変化



■さがみ縦貫道路の供用による国道 246、129 号の走行性の変化

国道 246、129 号からさがみ縦貫道路への交通の転換により、国道 129 号の関口中央～戸田間の旅行速度は、平成 26 年 9～11 月平均の 22.4km/h から、平成 27 年 9～11 月平均は 29.4 km/h へと 7.0km/h 向上しており、走行性が高まっています。

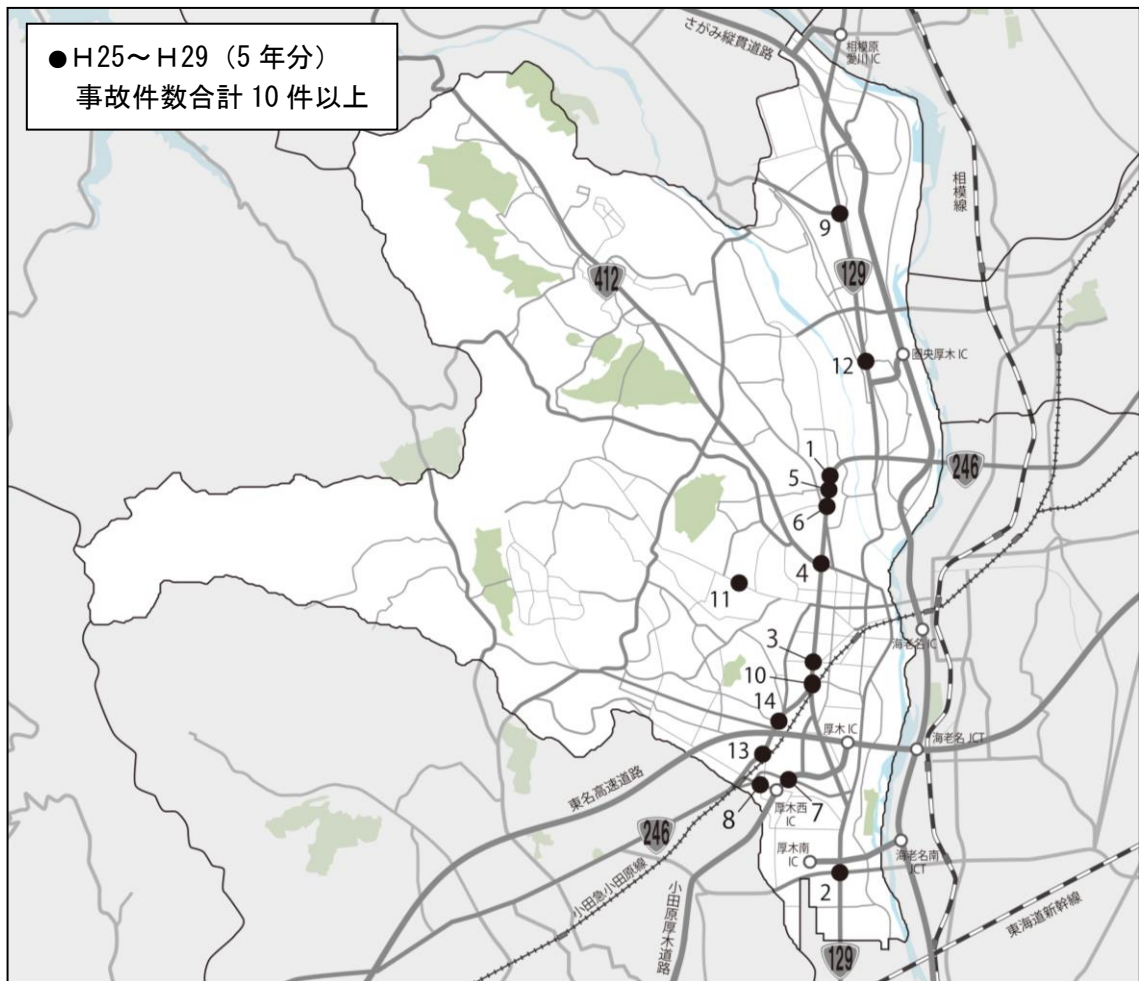


データ提供元: 民間プローブデータ(Hondaインターナビフローティングカー統計データ)(平日 7～19 時の 12 時間)

(5) 交通事故発生状況

平成 25～29 年の5年間で、厚木市内では「妻田そりだ交差点」「戸田交差点」「文化会館前交差点」などで多くの交通事故が発生しています。交通事故多発箇所は、国道 246・129 号の重複区間周辺に多く分布しています。一方、依知地区、荻野地区、小鮎地区、玉川地区の郊外部では、交通事故の発生は少ない状況です。

■厚木市内の交通事故多発箇所(H25～29年)



NO	交差点名	交差道路			事故件数	NO	交差点名	交差道路			事故件数
		国道	県道	市道				国道	県道	市道	
1	妻田そりだ	●		●	18	8	宿下橋		●	●	13
2	戸田	●	●		17	9	山際	●	●		11
3	文化会館前	●		●	17	10	温水沖田	●			11
4	市立病院前	●	●		14	11	温水入口			●	11
5	妻田伝田	●		●	14	12	中依知	●		●	10
6	妻田	●		●	13	13	坊中	●		●	10
7	片平		●		13	14	船子	●		●	10

※ に着色してある交差点は、市道が交差する交差点

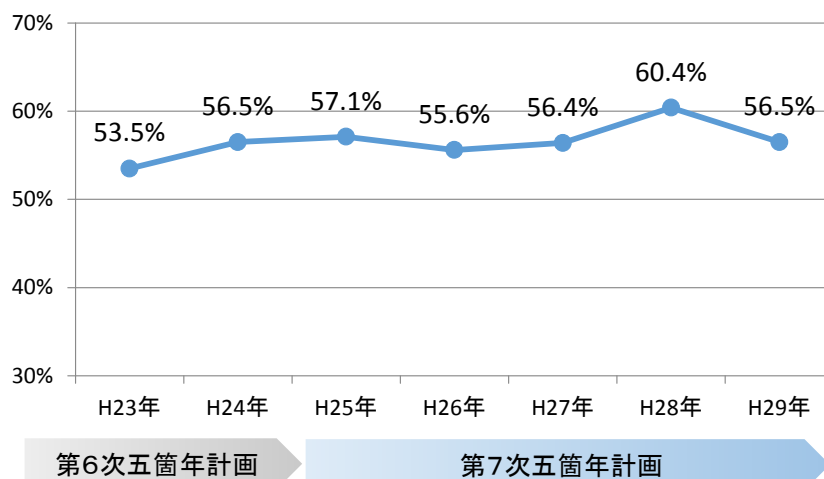
2-3 道路交通に対する市民のニーズ

(1) 交通環境に対する満足度

厚木市民満足度調査によると、厚木市が実施している交通環境整備（バスなどの公共交通の充実、広域的な幹線道路の整備など）に対し、満足している人の割合は、第9次厚木市総合計画「あつぎ元気プラン」の目標値である60%前後を推移しており、平成29年度は56.5%となっています。

しかしながら、交通環境整備に対し満足していない人の割合も高く、調査を行った37項目のうち2番目に高くなっています。

■ 交通環境整備に対する満足している人の割合



出典：平成29年度厚木市民満足度調査報告書

■ 満足していない人の割合が高い項目（上位5項目）

順位	項目	満足していない人の割合
1	中心市街地の活性化	32.3%
2	交通環境の整備	18.9%
3	安心して安全に暮らせるまちづくり	16.7%
4	地域医療環境の充実	16.0%
5	高齢者の生活環境づくり	15.8%

出典：平成29年度厚木市民満足度調査報告書

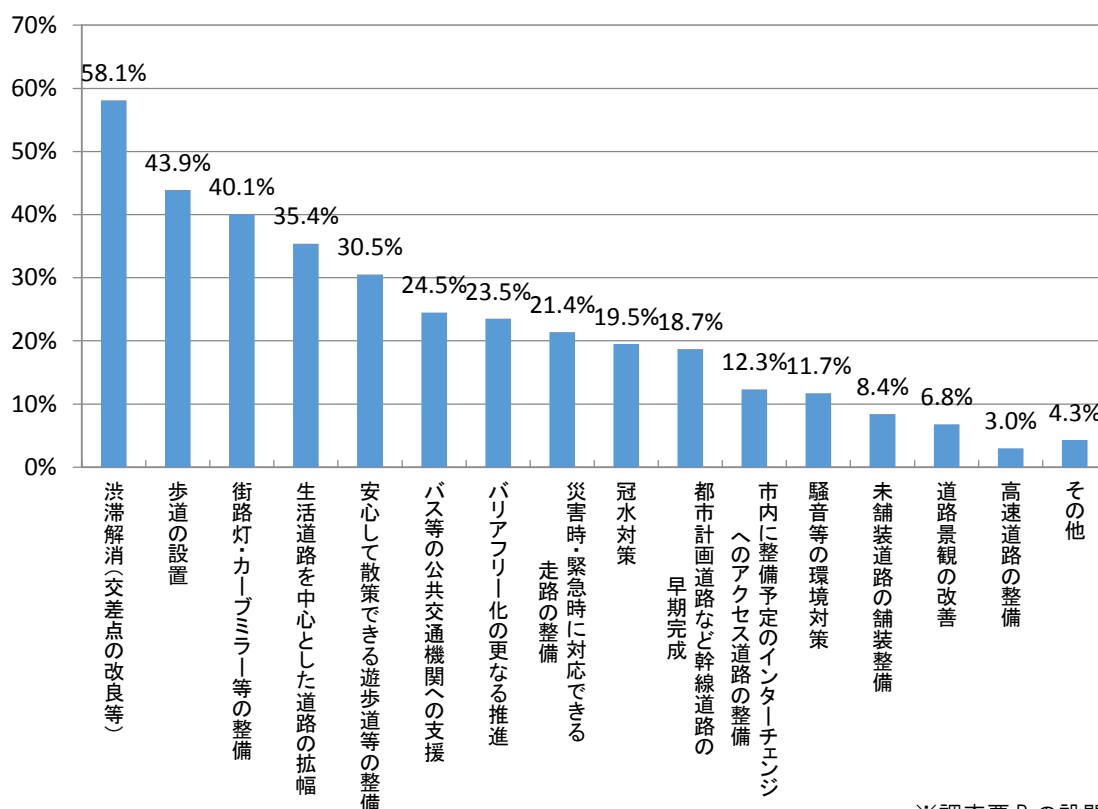
【厚木市民満足度調査の概要】

- 調査目的) 厚木市の施策や事業に関する市民の満足度及び重要度を調査し、今後の市政運営等の基礎資料とする。
- 調査対象) 厚木市在住の18歳以上の男女4,000人(外国人住民を含む。)
- 調査項目) 7分野37項目の満足度・重要度と総合満足度

(2) 道路整備に必要な取組

平成29年度厚木市民意識調査によると、回答者の58.1%が「渋滞解消（交差点の改良等）」に対する取組が必要と指摘しています。次いで「歩道の設置」「街路灯・カーブミラー等の整備」「生活道路を中心とした道路の拡幅」「安心して散策できる遊歩道等の整備」に対する必要性が高くなっています。

■厚木市の道路整備に必要な取組



※調査票Bの設問

出典：平成29年度厚木市民意識調査

【厚木市民意識調査の概要】

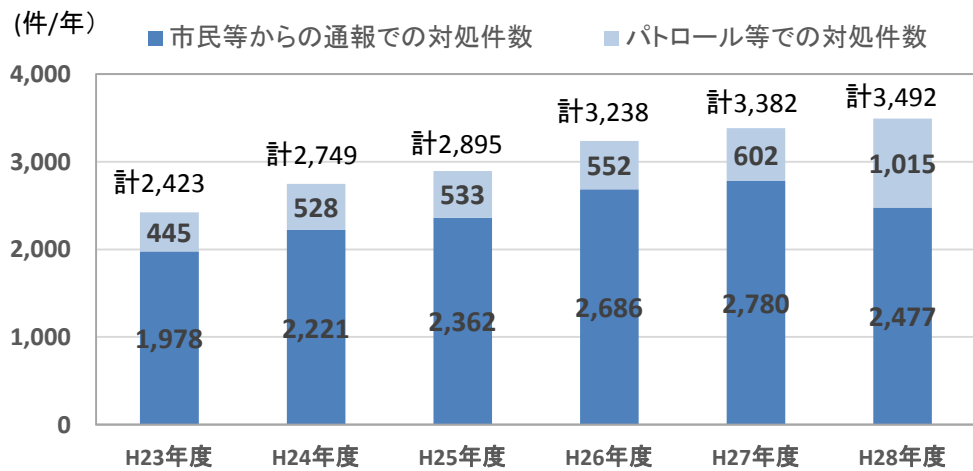
- ▶ 調査目的) 市民のまちづくりに対する考えや市民生活に関係の深い事項について、市民意識の変化やニーズを的確に把握し、今後の市政運営等の資料とする
- ▶ 調査対象) 厚木市在住の18歳以上の男女6,000人
(調査票A 3,000人、調査票B 3,000人)
- ▶ 調査項目) 7分野37項目の満足度・重要度と総合満足度

(3) 道路利用者からの通報

道路利用者からは、道路の維持管理に対して多くの通報があげられています。

厚木市道路補修事務所では、このような通報を受け、「穴ぼこの補修」、「街路樹の剪定」、「ガードパイプの補修」、「カーブミラーの補修」等の維持管理対応を行っています。平成28年度には、道路利用者からの通報を受けた2,477件、厚木道路補修事務所のパトロール等で発見した1,015件、あわせて年間3,492件の維持管理を行っており、その件数は、平成23年度以降、増加傾向にあり、平成26年度以降、3,000件を超える対処件数となっています。

■ 厚木道路補修事務所の維持管理件数の推移



職員による舗装の補修



厚木市道路補修事務所とパトロールカー

Topics

◆厚木市民情報提供システム

「スマ報」の活用でさらに迅速に！



スマートフォン等のカメラ機能とGPS機能（位置情報）を利用し、市民の皆さんが市へ情報提供することができるシステム「スマ報」運用開始（平成29年12月）で、さらに迅速な対応ができるようになりました。

【情報提供について】

市民の皆さんからいただいた貴重な情報は、「スマ報」のシステムに登録され、各担当課にメールで配信されます。各担当課は、その情報の内容を確認し、速やかな対応などに役立てていきます。内容によっては、時間を要するものや市での対応が困難な場合もあります。

また、緊急の場合は、「スマ報」の道路や公園・緑地などの各カテゴリごとに記載された担当課へ直接電話してください。

【情報提供できる内容】

- 1 道路の損傷箇所（道路の損傷、カーブミラーの損傷、街路灯の不具合）
- 2 公園遊具の不具合（トイレ・水道の不具合、樹木の剪定・除草、公園内の電灯の不具合、遊具・施設の破損、その他の公園に関すること）
- 3 不法投棄
- 4 落書き
- 5 外来生物（オオキンケイギク、アレチウリ、オオハンゴンソウ、オオフサモ、その他の外来生物）
- 6 厚木の魅力（開花情報、紅葉情報、お薦めスポット）

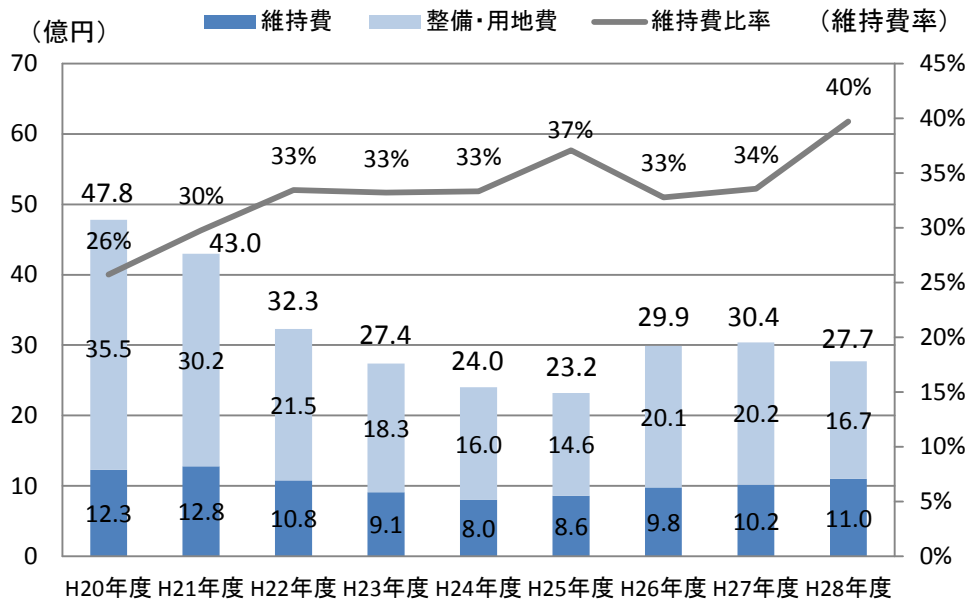
2-4 道路にかかる費用の推移

厚木市の道路にかかる費用（決算ベース）は、平成28年度で維持費が11.0億円、整備・用地費が16.7億円の計27.7億円となっています。

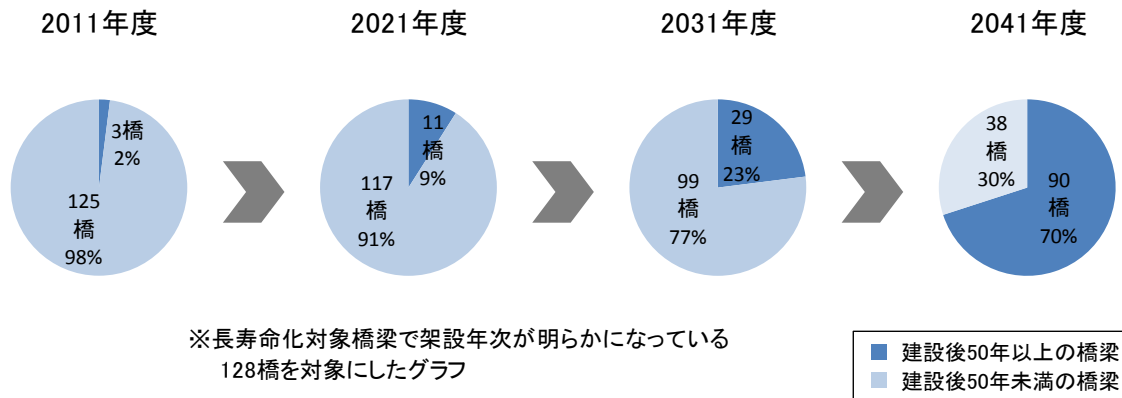
道路にかかる費用は、平成20年度（47.8億円）以降減少傾向にあり、平成28年度は平成20年度の約6割と、道路に費やす財源は厳しい状況にあります。

このような状況の中、維持費は平成24年度以降増加しており、平成28年度は費用の40%を占めています。補修が必要となる橋梁も増えていくため、維持に要する費用は、今後も増加していくものと推察されます。

■厚木市の道路にかかる費用(決算ベース)の推移



■建設後50年を経過する橋梁



出典：厚木市橋梁長寿命化修繕計画